

はたらき人

沖縄信徒聖書学校
沖縄聖書神学校

沖縄県那覇市首里石嶺4-356 (〒903)
事務局
聖書学校
☎ 09893(7)8988
神学校
☎ 0988(84)4391

米・アラスカの海の厚い氷に閉ざされた二頭の鯨の救出作戦が、米ソの空と海からの協力により成功したのは、一九八八年十月二十六日の事でした。さかのぼる五千年以上前にエリコ城は、イスラエル人の前に城門を堅く閉ざして、だれひとり出入りする者はありませんでした。(ヨシユア記六の一)。神の人類救出作戦命令は、まずヨシユアに下り、手勢をもって、一週間エリコ城を一回りせよ、との事。七人の祭司たちが、七つの雄羊の角笛を持って、箱の前を行き、七日目には、七度町を回り祭司たちは角笛を吹き鳴らし、民は角笛を聞いたなら、みな大声でときときの声あげなければならぬ。町の城壁がくずれ落ちたなら、民はおのおのまっすく上って行け。との事であった。命令どおりの作戦は実行され、大勝利を収めた。それだけではなかったのである。城内にいた遊女



沖縄信徒聖書学校校長
折田 政博

門は閉じられる

ラハブとその家族が、神の軍勢に味方して、閉ざされていた城門を内側から、開放する事に一枚加わっていたのである。人間業では、難攻不落の城も、神の作戦と、信仰をもって戦うイスラエルの勇士と、信仰の家族となったラハブの選択の三者の協同作戦の前に、あえなく落城することになったのである。

最近、共産主義王国ソ連は、ペレストロイカの風が吹き、反体制派の親分と目されていたサハロフ博士の名譽を回復し、今年中に、全政治犯を釈放すると発表した。お隣りの韓国と北朝鮮の合併は、二〇〇〇年に可能になると、アメリカの国連大使はのべ、華僑の著名な学者は、五十年後、中国はキリスト教国になるであろうと予言をしている。日本がアラブ世界の最大の宣教師派遣国になると語っている人もいる。この世界の激しい変化の背後に、世界宣教が

最終ラウンド、野球でいえば、九回裏の攻防戦に入ったこの時期に、世界の王の王、主の主であるお方の深い意図があることを見逃してはならない。

沖縄の宣教は、この地に住む私達の責務である。未伝地の四町十三ヶ村にすみやかに教会を置き、福音を満たさなければならぬ。明日にでもしなければならぬ。主は、群衆を見て、羊飼いのない羊のように弱り果てて倒れている彼らをかかわいそうに思われた。その時、弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主は、収穫のために働き手を送ってください。ように折り返さない。」と(マタイ九の三六・三七・三八)。

鯨の救出作戦の先頭に立ったのは、エスキモー人でした。エリコ攻略は、ヨシユアとラハブの「信仰の勝利」でした。沖縄の総福音化はだれの手にか？「門が閉じられる」前に、あなたが立ち上る時が来ていませんか？



南の隣人を訪ねて

三年 末吉 重明

去る八月、台湾の関山教会、鹿野教会、延平教会、新港教会を訪ねることができました。関山教会に投宿し、兼牧教会の鹿野教会の両教会との交流が中心になりました。関山教会の位置は台湾の右下のところに台東県の台東市より、北方55kmの山合いの町です。町の名は関山鎮といひ、日本でいう町にあたります。人口一万四千人、産業稲作、落花生、トウモロコシ、教会は六教会、うち山の教会二つです。小学校四校、中学校二校、農工高校一、主交通は乗合バス、列車、単車、等の地域状況下にある関山教会に宿泊しながら長老宅での心のこもった食事とお茶の時を持っていただき牧会伝道の実地見聞をさせていただきました。過疎化の町であり若年層の勉学と就職による流出があるとのこと。異教文化の強い中で伝道集会の困難さを伺いました。例えばCS等で小学三年生頃までは親は子供がCSに行くことに放任ですが、高学年に進むにつれ、

家の宗教とは違うから教会へ行っただけな教会といひ。大人対象の伝道集会は著名な方ではなければなかなか教会へ来てもらえない。来ても本論に入ると一人去り二人去りして新しい人は残りまで残らない厳しい状況です。機械文明が発達し、居ながらにして全てを楽しめる時代になりましたので二、三〇年前に比べて伝道もむづかしくなりました。

以前教会は来られた方から礼拝から遠ざかった方々をくまなく訪ねている一人の役員の方と家庭訪問をする事ができました。バスにのり、又タクシーにのり山のふもとが目的地でした。六軒の家を一時間弱の訪問時間で、交通不便な中自分の足で、弱った魂を求めて歩く姿を見て、伝道はどこでも同じだと思ひました。ロマ書十章「あはるむわしいかな、良きおとずれを告げる者の足は」伝道の原点を見せられる台湾伝道旅行でした。

祝福された公開講座

聖書学校・神学校の次の講座に多数の学生・信徒が出席し学び、祝福されたものでした。

▼七月二日、聖書神学舎の元校長の舟喜順一先生を迎え、神学校では「聖書論」聖書学校では「救済論」が語られた。▼十月四・六日、ウイクリフ聖書翻宣教師福田崇先生により、ミニ言語講座が開かれた。▼十月十一・十三日、東京キリスト教短期大学学長丸山忠孝先生を迎え、神学校では教会史の圧縮された講義、聖書学校では二晩にわたって「キリスト教の世界観」について語って貰った。



舟喜師



福田師



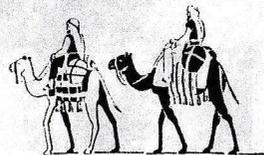
丸山師

一番はやい聖書学校・神学校

クリスマス感謝会

日時：12月4日(日) 午後3時
場所：沖縄祈禱院(首里石嶺)

讚美、クリスマスページェント、証しあり、楽しいひとときをともにすごしましょう。兄弟姉妹の来会歓迎！



学をうして全び

コロサイ 28-129

第三期生 金城 宏

待ち遠しかった合格通知に感動を覚え、感謝しつつ入学した沖繩信徒聖書学校の学びも、はや二年間が過ぎ、ここに私達二五名の兄弟姉妹がそろって第十三回目の卒業生として今日の日を迎えることが出来ました。ことを心から感謝いたします。

聖書信仰に立脚した映えある超教派の聖書学校において、共に祈り、親しく交わり、主を讃美しつつ二年間の学びを全うできた喜びと恵みも、共に分かち合いたいとおもいます。週二晩の学びも、主が私達の時間を聖別して下さり、健康を支え、思いを整えて下さって豊かに導いて下さいました。

また、諸先生方には、知るに疎く、悟りに遅い私達を、限らない忍耐と愛をもって励まし、教え導いて下さいました。気さくで話し好きな安里

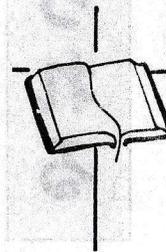
先生。試験の度に「主の山に備えあり」と励まして下さいました。いつも柔和、信仰の継承を淡々と説かれた新垣先生。談論風発して講義が深夜に及んだ運天先生。聖霊充滿、何かヤマトグチ（大和口）が上手なウチナーンチュ（沖繩人）折田先生。ユタ、サンジソウから教会成長論まで、気合いの入った国吉先生。説教実演、それは苦しみの時。笑いで教えたデーファー、斉藤先生。愛と情熱をもって、パウロを語られた名護の桃原先生。じっくり、ていねい、しかも余韻深々（アジクスター）旧約研究の渡真利先生。クリスチャンの生き方を力強く啓発された当銘先生。身なり端正、牧会者の本音も聞かせてくれた松田先生。私達は諸先生方との出会いを通して御薫陶を頂くことができて大変光栄に存じます。

思えば、わずか二年間に、主は私達卒業生のうちにも大きな喜びとまた試練をも与え、人生模様をかいま見せて下さいました。大きな悲しみを乗り越えて自分の信仰を証しされた桃原姉、入学後に与えられた正次君と親子で学んだ大城姉。両姉妹の頑張りには私達はどんなに勇氣づけられ、励まされたことでしょうか。特に、このクラスから二人の姉妹が神学校に進学することになりました。ことを共に喜び、また私たちの誇り

としたと思います。在校生の皆さん、共に遊んだタイガー・ビーチ、熱気と緊張、和気あいあいのクリスマス感謝会、はっきりする授業の後の交わり会等々。沢山の思い出、恵みを分かち合うことが出来て有難うございました。

今日、私達卒業生はそれぞれ新たな思いで明日へのスタート・ラインに立たされております。二年間の聖書学校での学びを通して、聖書の真理の広さ、深さを教えられました。また教理と実践の体系的学びの入り口を示していただき、より高い展望へと導かれて感謝であります。これからも、この学びを基礎にして、更に主による訓練をうけつつ神と人に仕え、救霊のために自分を与える僕として、信仰の歩みをしていきたいと思っております。

（首里バプテスト教会員）
（去る三月、十三回卒業式が行われ、十五名兄弟が卒業されました。この文章は、卒業生代表として挨拶されたものです。ただし、紙面の都合上一部のみ掲載いたしました。）



台湾伝道研修報告

三年 藤村 幸貴

折りつづけて来た台湾伝道研修の旅もいよいよ実現の運びとなりました。台湾は小生にとっては第二の故郷でもある。青年期に五年間も台北で生活した経験もあり敗戦によって沖繩に引き揚げて来ました。沖繩が日本復帰後これで四度目の台湾訪問となった。

回を重ねる度に成長する台湾は今、躍動の発展途上にあることに驚きでした。八月五日沖繩を発ち台北のYMCAで末吉兄、引率の古堅先生と一泊し、六日九時、私の巡道先の教会の牧師、長老が迎えに来られた事に感謝しました。台北近郊の板橋

海外伝道研修について

沖繩聖書神学校では学生に対して夏休みの伝道プログラムが課せられている。一年次、十日間断食研修、二年次、本島縦断伝道旅行、三年次、二週間台湾断食伝道旅行、四年次、韓国教会研修伝道旅行となっている。今夏は一年生は祈禱院で十日

市の埔墘長老教会へ十時頃到着、準備された一室に落付き、翌日の主日礼拝ではメッセージの奉任。初めて会う方々と礼拝後は交わりを深めていくうちに同じ主の家族としての実感が増し加わり此処にも主の恵みとみ業を見ました。牧師先生は日本語が達者な方で同時通訳をして下さいましたので、言葉の不自由はほとんど感じませんでした。毎日が奉仕の日々で家庭集会、祈禱会、婦人会、教会学校、家庭訪問と次から次へと毎日多忙な奉仕でした。特に昼食と夕食は教会員の家庭より招かれ心ゆくばかりの接待を受け個人的にも深く

間断食聖別研修を連天教授の指導の下行われた。三年生は、古堅、宮村両師と共に二人の神学生、藤村兄、末吉兄の計四人で台湾教会を訪問した。古堅師は台南地区特に高雄市本拠に研修と奉仕を行った。宮村師は台北と海外伝道大会に参加。藤村兄は台北市近郊の諸教会で働きをなされ祝された。末吉兄は台東地区の田園教会で奉仕された。以下は二神学生の夏期台湾教会研修の報告です。



台湾伝道研修参加者

い交わりができました。台湾の方々の深い愛の行為は実にすばらしいと思えます。埔墘教会は開拓二〇年で礼拝は百二十人位の教会です。信徒はよく訓練されていて、長老、執事、教会員の連繋はよく、組織的活動は、開拓中の私にとっては、とっても学ぶ所が大でした。

研修日程の最後の三日間は私の所属する新約教団と関わりのある国際センター台湾事務所（台中市在）を訪ねることができ幸いな事でした。又同盟のおおるハーベッカー宣教師御夫妻との交わりもあり、共に主のみ業をはめたたえて感謝でした。沖繩へ帰る最後の夜は埔墘教会



埔墘教会にて

でこの研修旅行が終るにあたり感謝集会を行いました。それは信徒からの要望によるもので本当に感謝一ぱいの集会となりました。キリストの恵みは国境を越え海を越え、人種、言語を越えて共に神の家族だないと実感できたことは幸いです。台湾へ派遣して下さった沖繩聖書神学校と受け入れて下さった埔墘教会に主の恵みがありますように。

「平和のきつなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。かたはら一つ御霊は一つです。あなた方が召されたとき、召しのもたらした望みが一つであったのと同じです。主は一つ信仰は一つ、バプテスタは一つ

一九八九年度
沖繩信徒聖書学校学生募集

- △募集人員 二〇人
- △入学資格 新生の明確な自覚をもち、受洗後一年以上忠実な教会生活を送っている者。
- △修養年限 二年（毎週火曜日、金曜日午後七時三〇分～九時）
- △願書〆切 二月末日
- △入学試験 三月六日（月）午後七時
- △科目 聖書・一般常識・小論文及び面接
- △申し込み 沖繩市宮里二一三 一三 新垣栄市 電話 七一九八八



第13回卒業式